

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192100127		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター大垣墨俣		
所在地	岐阜県大垣市墨俣町墨俣452		
自己評価作成日	平成23年7月12日	評価結果市町村受理日	平成23年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様を中心としてご家族と話し合いニーズに応じたケアプランの作成、サービスを提供しています。急な利用変更においても、柔軟な体制で対応しています。利用者様と職員が会話する時間が多くあり、家庭的な雰囲気があります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokouhyou.jp/kai/gosip/inforati/onPublic.do?JCD=2192100127&SCD=730&PCD=21
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成23年8月23日

利用者の安心・安全を図るため事業所の車には使用担当者のプレートを貼り、個々の責任を明確にし安全運転の励行に務めている。また、通いのサービスは6時から21時まで提供可能であり、働きながら介護する家族や急な延長にも柔軟に対応することができる。全職員が、毎日夕礼の申し送り時にその日の反省や気づきなどを発言して、情報の共有と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。管理者は、同業者の会合に積極的に参加し、相談したり情報を参考にするなど事業所の発展に繋げている。地域の老人会を中心とした見守りネットワークと民生委員・事業所が連携しており、地域の高齢者の暮らしをサポートする事業所となっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ニチイの経営理念にある『豊かな人間生活の向上に貢献します』を実践。安全・安心に生活できる場を提供しています。	管理者は、地域密着型サービスの意義を理解し、理念に基づく行動指針(モットー)を職員と共に作っている。申し送りや全体会議などで、理念に沿った支援であるかを確認し合い、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の自治会に入り、回覧板等で地域の情報を共有。また町内のお祭りに参加し地域と交流している。	地元の祭では利用者とおんどん作りに参加したり、行事案内を近隣に配布して参加の呼びかけをするなど地域と交流を図っている。また、地域の見守りネットワーク活動に協力して、地域福祉の向上に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員さんを通して 地域の皆様に小規模多機能型サービスを紹介している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回 運営推進会議を開催。サービスの利用状況や活動の報告を行い、委員さんのご意見や質問を聞いて、サービスの質の向上を目指している。	会議では、事業所の活動や利用状況を報告し、質問・要望を受け、話しやすい関係を築いている。利用者の状況を地域の見守りネットワークに繋げたり、要望から受け入れ条件を緩和するなど運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の高齢介護課、社会福祉協議会、地域包括支援センターに出向き、情報を頂いたり、支援を受けている。	毎月地域包括支援センター・社会福祉協議会へ出向き、事業所の現状報告や相談をしている。市町村合併で飛び地にある事業所としての課題を積極的に伝えながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束のマニュアルがあり、拘束のしないケアについて理解し、実践している。	職員は各自マニュアルを持ち、研修や会議等で身体拘束や虐待をしないケアを学び実践している。見守るときの立ち位置など、些細なことから拘束にならないよう配慮したケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアルがあり、『虐待は絶対にしてはいけない！』ということを職員に周知徹底、理解し実践している。また入浴時には身体の変化に気をつけている。		

ニチイケアセンター大垣墨俣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内の採用時研修時にマニュアルにて研修。現在のところ該当者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に書面にて契約の重要事項説明書を交わし、家族様の質問に応じ、サービスの内容に理解、納得して頂いてから契約を交わします。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に、苦情相談窓口(本社、事業所)が24時間 365日対応していることを説明している。また利用者のご家族に運営推進会議に参加していただき、意見をだしていただき、運営に反映している。	訪問時・通いの送迎時や連絡帳から意見や要望などを聞き、苦情は速やかに対応している。また、要望から送迎時間の調整など運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼、夕礼の申し送り時や月1回の全体会議にて、意見や提案を聞いて運営に反映している。	管理者は、毎日の申し送り・会議・全職員が所属する委員会などから提案・要望を聞いている。管理者と職員は言いやすい関係を築き、提案などは、試行しながら運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内にはキャリアアップ制度があり、管理者が職員の努力や実績、勤務状況を評価 給料がアップする制度がある。また有休休暇も随時取得できる体制になっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時には社内での研修があり、業務内容や接遇マナー等の勉強する機会がある。また外部研修にも積極的に参加できる体制作りができています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大垣市の介護事業者連絡会や小規模多機能連絡会に出席して、研修、情報交換し、サービスの質の向上に役立てています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用サービス開始前にはアセスメントを本人の状況の理解。ニーズを確認しながら、ケアプランの作成。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人同様、ご家族にもお話を伺い、ご希望にあうよう柔軟に対応。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントでお聞きしたことや状況をもとにすこしでも在宅での生活が維持できるように住宅改修や福祉用具の活用を含め、本人やご家族に助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人と職員との信頼関係の構築。家庭的な雰囲気でのサービスの提供。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は介護されている 家族の思いを理解し、それに添うようにし、ご家族と共にご本人を支えていく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や親戚の方の来訪時には相談室等でゆっくり話せる環境をつくっている。	友人の来訪に、相談室を開放して気兼ねなく話せるよう配慮している。連泊利用者が、喫茶店や墓参りに出かけたり、別居家族との繋がりが切れないよう訪問するなど馴染みの関係が途切れないよう、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者様の席を近づけたりしたり、コミュニケーションの困難な方には職員が間に入るなど利用者様同士が交流できるよう支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	解約後も家族様の希望がある場合には相談に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始前にはご本人、ご家族から家庭での様子や やわらぎでどのように過ごしていきたいか等聞いている。また送迎時や入浴時などの個別対応時には声かけし、思いを聞き取るよう努力している。	利用者との個別対応に十分時間をかけ、顔色を見たり、何気ない会話の中から思いや意向の把握に努めている。好きな事をする自由な時間があり、塗り絵や読書など楽しんでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前のアセスメント時に聞き取るよう努力しているが、まずは馴染みの関係をつくり、それからの会話の中で聞きとるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家庭での1日の様子も考慮しながら 横になって過ごす時間を作るなどしている。またADLを把握し、個々に応じた生活が送れるように心がけている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービスを利用していく中で気づいたことはみんなで情報共有している。変更があった際にはその都度ケアプランを見直している。	毎月行うモニタリング・職員の気づき・看護師・かかりつけ医の意見などを取り入れ、介護計画の見直しをしている。急な泊まりや利用者の状況の変化などから、随時、介護計画を変更し作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいたあればすぐに個人記録に記入している。また申し送りノートも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定のサービス利用にとらわれず、ご本人やご家族から希望があった際にはサービスの利用や変更できるよう配慮している。ただ、毎日通い利用を希望される方もいらっしゃるのが現状。		

ニチケアセンター大垣墨俣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括センターや民生委員さんと連携して安全、安心に生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用日にはバイタルチェックを行い、変化時等は連絡をし指示を仰ぐようにしている。また受診時にはご家族の理解が得れば付き添ったり、主治医にやわらぎでの様子を書面にて伝えている。	家族の付き添いにより、かかりつけ医を受診している。介護支援専門員が、利用者の状況を書面で伝えたり、同行するなどして、それぞれのかかりつけ医との関係を築くよう努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師のもと、常に健康状態の把握を行っている。また主治医にもやわらぎでの様子を伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はなるべく面会に行き、主治医や担当の看護師に状態をお聞きし把握するようにしている。またご家族ともまめに連絡を取り、退院後も安心して利用できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルケアを行ったことはないが、要望があった際にはご家族、主治医、職員と情報共有し連携を図り支援していきたい。	契約時に事業所の方針を説明し同意を得ている。利用者・家族の希望を聞きながら、家族・かかりつけ医・職員と情報を共有して、事業所の出来る限りの支援をするよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	『お客様急変時対応マニュアル』があり、急変時はそれに従い動くようにしている。看護師がいる際には指示を仰ぎ、主治医・ご家族に連絡する。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の時に地域の方と共に消防訓練を実施。協力体制がある。また災害時の緊急連絡網、備品、食料の準備がある。	運営推進会議のメンバーの他、近隣住民と共に避難訓練を行っている。地域住民から「何かあれば知らせて下さい。」という言葉もあり協力体制を築いている。管理者は、夜間想定避難訓練を今後の課題としている。	毎日泊まりの利用者もあることから、早急に地域住民の参加の下、夜間想定避難訓練の実現を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の個性を尊重し一人ひとりに合わせたケアを行い尊厳やプライバシーを損ねない声かけをしている。	トイレ誘導の言葉かけや入浴時の対応など、誇りやプライバシーを損ねないケアを心がけている。また、毎年全職員は、法人の個人情報保護に関するテストを受け、それらを扱う大切さの意識付けをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の表情や言葉を注意深く観察、本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望を聞き、個々のペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回 移動美容室にきていただき、本人の希望に応じカットしている。(毛染めもOK)		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立委員会が中心となって毎日のメニューを考えている。またノートを活用し、人気のあったメニューを書き残し、参考にしています。食後は利用者様に食器拭きを手伝っていただいています。	利用者の好みを参考にして、法人の提供するメニューから献立表を作成している。ご飯、汁物以外は、調理されて届く為、後片づけ、食器拭きなどを一緒にしている。しかし、職員が利用者と共に楽しく食事をすることがない。	職員が利用者と同じ献立で一緒に会話を楽しみながら、食事が出来るような取り組みを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量は個々に合わせ調節したり、嚥下状態に合わせて刻み食で対応、また減塩食も提供。水分もしっかり取っていただけるよう声かけ、摂取量は記録し体調管理等に役立てています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけ、実施しています。一人で出来ない方は職員の介助しています。		

ニチイケアセンター大垣墨俣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツやパットの使用を減らす為、個々の排泄パターンを把握、時間を見ながら声かけにて誘導しています。	個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導している。日中はリハビリパンツやパットを使い、オムツ使用を少なくしている。また、家族に助言するなど自宅生活継続の支援にも働きかけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量 排泄、活動状況を把握。便秘時には入浴、トイレ介助時に腹部マッサージしたり、水分を取っていただけよう声かけしています。またご家族とも相談しながら自然排便の工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	個浴にて対応。本人やご家族の希望に沿って決めている	通いの目的が入浴ということもあり、個浴で会話を楽しみながら入浴している。機械浴の設備もあり重度の方も対応できる。嫌がる利用者には、担当者や言葉かけに配慮して入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望や状況に応じソファでくつろいだりベットに横になって休んでいただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の既往症や現症を把握。効能や副作用、用法や用量を理解している。誤薬や飲み忘れが無いよう、服薬介助しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アクティビティの内容を工夫し楽しく参加してもらえるようにしています。また得意なことで個々の能力をだしていただけるお手伝いも考えてます。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出支援はしていません。天気の良い日に散歩に出かけることがたまにあります。	通いが、自宅からの外出と考え日常的な外出はないが、季節毎に、つるし雛めぐり・梅林公園・堤防の桜・紫陽花など利用者の希望にそって戸外に出かけるよう支援している。また、訪問時間に、利用者の希望で花見に出かける支援もしている。	

ニチイケアセンター大垣墨俣

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはお金は必要ないので持参しないように呼びかけていますが、ご本人がお金を持つ事で安心されると言われる方はご家族と相談、最小限の金額で持ってもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ほとんどの方が通い利用の為、事業所内ではそのような支援はしてないです。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やディールームには季節のお花を飾っています。またお花以外にも生活感や季節感を出すように飾りつけし居心地のいい雰囲気作りを心がけています。	共有空間は、陽ざしが入り明るくて広い。ソファで新聞を読んだり、横になるなど一人ひとりのペースで過ごせるよう配慮している。また、手作りのカレンダー・朝顔やよしずで日よけをするなど生活感や季節感を採り入れ、居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの配置等は気の合った同士で過ごせるよう配慮しています。テレビも自由に見られるようになってます。疲れて休むベットは個室になってます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	泊まりの居室は洋室、和室(ベット、布団)があり個々の希望や状況に応じ泊まっていたいでます。	利用者が安心して泊まれるように、馴染みの物を持参してもらったり、家族から自宅での様子を聞くなどして、家庭と同じように過ごせるよう配慮している。また、和室と洋室があり、利用者の好みにも対応できる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	建物内部は全てバリアフリーになっており、ディールーム、トイレ、お風呂には手すりがついており、個々の身体機能を生かした介助ができ、自立支援となっております。		